

みんなで創ろう コウノトリの里

今回のテーマは、

Vol.1

～ふるさと鴻巣に息づくコウノトリ～ **です!**

このコーナーでは、本市に縁の深いコウノトリや豊かな自然環境とその保全に向けた取り組みなどを取り上げ、本市が進める「人にも生きものにもやさしいまちづくり」についてご紹介します。

問い合わせ／コウノトリの里づくり推進プロジェクト(☎501-6809)



赤ちゃんを運ぶ鳥!?

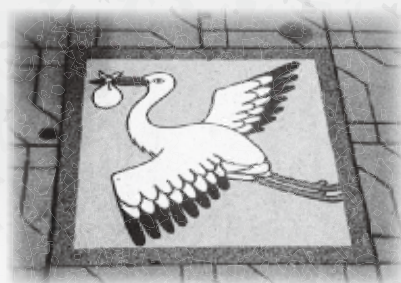
コウノトリは、「赤ちゃんを運んでくる」との伝承などから、おめでたい鳥「瑞鳥(ずいちょう)」として、古くから人々に親しまれてきました。また、「鴻巣」という地名の由来ともいわれる「こうのとり伝説」にも登場し、私たち市民にとって、非常になじみの深い生きものです。それは、街中にコウノトリがあふれていることから感じることができます。今回ご紹介した以外にも、色々な場所でコウノトリを見つけることができます。皆さんもまち歩きをしながら、幸の鳥(コウノトリ)を探してみませんか?



◀コウノトリが描かれた花壇
【鴻巣駅東口エルミパーク】



▲コウノトリのモニュメント
【鴻巣駅東口駅前広場】



▲コウノトリのデザインタイル
【鴻巣駅東口中山道】



▲コウノトリのタペストリー
【鴻巣駅東口中山道】



▲市のシンボルロード「こうのとり通り」
【三谷橋大間線の一部区間】

ひなちゃんの豆知識



コウノトリが赤ちゃんを運んでくるというお話は、ヨーロッパが発祥といわれているよ。コウノトリは「赤ん坊の泉」を支配する神様の使者で、祝福と幸福を運んでくる役割なんだ。

そのヨーロッパには、コウノトリの近縁種である「シュバシコウ」が生息していて、ドイツの国鳥に指定されているよ。

参考資料／JX日鉱日石エネルギー株式会社ホームページ

【鴻巣市コウノトリの里づくり基金にご協力ください】

コウノトリは、田んぼや河川などの水辺生態系ピラミッドの頂点に立つ生きものです。そのコウノトリが自然の環境下で生息できるということは、その地域に多様な生きものが生息できる環境が整っていることを意味しており、このことは、私たち人間にとっても住み良い環境であるといえます。そこで、本市では「鴻巣市コウノトリの里づくり基金」を設置して財源を確保し、市民になじみの深いコウノトリをシンボルに、人にも生きものにもやさしい、自然と緑豊かなまちづくりに取り組んでいます。

基金の趣旨をご理解いただき、皆さんのご協力をお願いします。

問い合わせ／コウノトリの里づくり推進プロジェクト(☎501-6809)

